

血管：動脈と静脈を同時に作成…都臨床医研、マウスで成功

マウスの皮膚の下に人工的に動脈と静脈を同時に作ることに、東京都臨床医学総合研究所などの研究チームが世界で初めて成功し、米医学誌サーキュレーションに発表した。心筋梗塞(こうそく)などの治療法開発が期待される。

研究チームは乳がん発症を抑える機能を持った遺伝子が、皮膚の下に正常な血管を作るのを妨げる「ストッパー」という役割も果たしていることを発見した。そこで、ストッパー機能を消す分子を新たに作り出し、マウスにこの分子を体内で作らせる物質を注射。5日目には、注射をしていないマウスに比べ、約10倍の長さの動脈と静脈が作られることを確認した。

人工的に血管を作る方法はこれまでもあったが、作られたのは動脈か静脈の片方のみだったほか、血管はもろかった。同研究所の芝崎太プロジェクトリーダーは「サルやブタなどで心筋梗塞が治るかを確認しなければならないが、早ければ5年程度で実用化できるのではないかと話す。【斎藤広子】

毎日新聞 2010年9月2日 11時59分